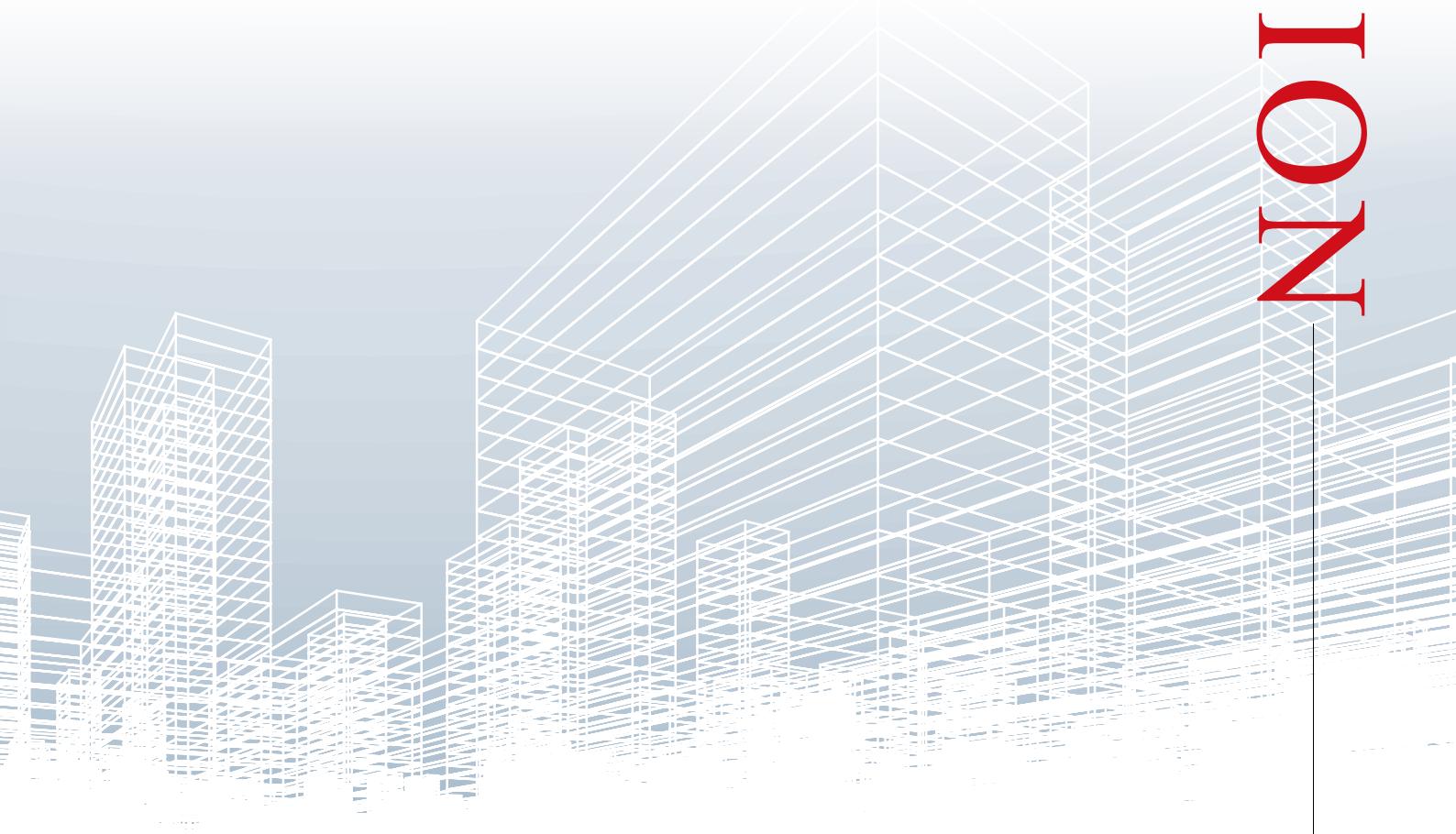


AINO VISION

AINO VISION 2030 REPORT

Vol. 1



学校法人 藍野大学
EDUCATIONAL FOUNDATION AINO UNIV.



建学の精神、教育理念、ミッションステートメント

学校法人藍野大学は1968(昭和43)年の創基以来、大阪府茨木市を拠点に、藍野大学(医療保健学部:看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科)同大学院(看護学研究科)、びわこリハビリテーション専門職大学(リハビリテーション学部:理学療法学科・作業療法学科)、藍野大学短期大学部(第一看護学科[2年制]・第二看護学科[3年制]・専攻科[地域看護学専攻])、藍野高等学校(衛生看護科)、明淨学院高等学校(普通科)を擁し、高度な専門的技量の獲得と実践的かつ応用的な能力を展開させるために、「藍野グループの協創(学校法人藍野大学・医療法人恒昭会・社会福祉法人藍野福祉会)」による教育機関と医療機関及び社会福祉機関がともに個々のガバナンスを確立した中で、臨床教育・研究開発等におけるアライアンスを形成し、理論と実践を架橋させる医療福祉のスペシャリストの育成や、現代医療の発展に寄与する人材の育成に努め、地域社会の中で大きな役割を果たしております。これからも時代のニーズに応じた高度な教育・研究の機能と責務を遂行することにより魅力ある教育研究活動の推進に努めて参ります。

学校法人藍野大学 建学の精神と教育理念の継承

■建学の精神

「愛智精神〔Philo-sophia〕に もとづく人間教育」

この建学の精神にもとづき、人間愛と智性と情操を高め、継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心をもった医療従事者の養成に努めています。

〈Philo-sophia〉

ギリシャ語の「φιλοσοφία」(philosophia、ピロソピア、フィロソフィア)は、「愛智」という意味である。哲学の語源であり日本語表記は「愛智」とする文献解釈が多い。元来「philosophia」は「知を愛する」「智を愛する」という意味が込められている。20世紀の神学者ジャン・ルクレールによれば、古代ギリシアにおいて Philosophia とは認識のための理論や方法ではなくむしろ知恵・理性に従う生き方を指して使われ、中世の修道院でもこの用法が存続したとされる。

■教育理念

創設者小山昭夫の著書『人間と病気 - 医学と医療について -』(1983年6月25日発刊)には『医療とは、医学の基礎の上に立つ医学の応用であると同時に、人間の苦に対して、人間としてどう対処するのか、病者にとって最善とは何か、を常日頃から問い合わせなければならぬ。こういう意味で我々は次の言葉を motto としているのである。』

“Saluti et solatio aegrorum”

(邦訳: 病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)

この言葉が、学校法人藍野大学の教育理念として創基から50余年継承されています。

■ミッションステートメント

急激な社会構造の変化の中、日本の社会は、最新の知見に根ざした医療サービスとともに、地域に密着し、心の通った安心できる医療の提供を求めています。学校法人藍野大学は、そうした社会の要請に応え、日本の地域医療の質の向上に貢献します。そのために、人間にに対する深い愛を持ち、生涯にわたり医療職としての誇りを持ち続け、研鑽を怠らない医療人の育成に努めます。

目次

学校法人藍野大学の教旨	1
理事長挨拶	2
教学マネジメント	3
AINO VISION 2030	5

ロードマップ 1968～2020	7
ロードマップ 2021～2030	9
財務情報	11
ブランド価値の向上	12
地域創生・連携推進の状況	13

大学改革とその実践

～社会の要請を踏まえた大学運営～



学校法人藍野大学（以下「本法人」）の礎は、1968年に医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院を開校して以来、建学の精神である「愛智精神[Philo-sophia]にもとづく人間教育」と教育理念である「Saluti et solatio aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」のもと、深い探究心をもった医療従事者の輩出を通じて、世界の医療と社会の発展に貢献してきました。また医療現場において多数の医療従事者がそれぞれの専門性を活かし、チームとして医療に当たるべきとの信条を堅持し、それを Sym-medical という言葉で表現、提唱しています。

本法人は 2022 年 4 月、将来にわたりサステナブルな教育・研究機関として独自の価値を社会に提供していくため、将来構想計画＜AINO VISION 2030＞を公表し、現在その第 1 段階として「中期計画」（2020 年策定・2021 年一部改訂）を推進しています。本構想ならびに中期計画の根幹を成すのは、内部質保証の実質化と教学マネジメント推進体制の構築です。内部質保証とは、大学がその使命を全うするため、教育、研究、組織運営を常に点検・評価し、改善していく取り組みです。また教学マネジメントは教育目的の達成に向けて実施する教育・研究の管理運営を意味し、大学経営の根幹であります。本法人では両者を不可分一体のものと捉え、学位プログラムの策定から学修成果の可視化まで幅広い教学マネジメントの取り組みを通じて、内部質保証システムの実効性向上を図っています。

優れた技能と人格を兼ね備えた医療人を育成してきた実績、そして人と社会に寄り添う経営姿勢から、本法人は学生、生徒、保護者の皆さまはもとより、広く

医療業界や地域社会から「面倒見が良い大学」と評価されてきました。今後も教学マネジメント推進組織と内部質保証推進組織を基盤として＜面倒見の良い大学であり続けるための仕組み＞をしっかりと構築・運用し、その価値をさらに高めていきたいと決意しています。

現代日本は、少子高齢化の進展、新型コロナウイルスを契機としたリモート社会の到来、DX（デジタルトランスフォーメーション）の産業社会への浸透、地域医療ニーズの拡大など、様々なトレンドが交錯する歴史的な転換期を迎えています。本法人はこうした経済社会の変化に的確に対応しながら、産学官および地域社会と連携して新たな価値を創出する「協創」の取り組みを加速していきます。また、このたび、ポストコロナ時代を見据えて、本法人のすべての学生、生徒、教職員を対象に、オープンコミュニケーションツール「 slack」を全学導入しました。引き続き、学生、生徒の学習環境や教職員の教育・研究環境を整備し、教育の質の向上に努めていく方針です。

本法人はこれからも継続的な変革を通じて社会の要請に応えつつ、次代における高等教育・研究機関の＜あるべき姿＞を追求して参ります。学生、生徒、保護者の皆さま、医療従事者、地域社会の皆さまなど、ステークホルダーの方々には引き続きご理解とご支援を賜りたく心よりお願い申し上げます。

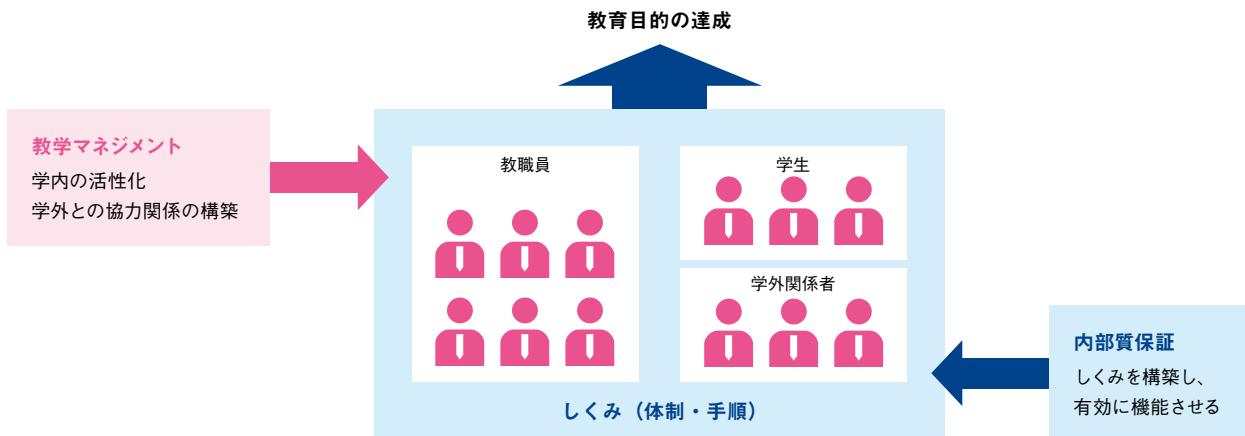
学校法人藍野大学 理事長

小川英夫

教学マネジメント体制の確立

～内部質保証の実質化に向けた教学マネジメント推進体制

学校法人藍野大学は、建学の精神、教育理念、ミッションステートメントを実現していくために、教育、研究、社会貢献、管理運営・財務の諸活動について、中長期事業計画をもとに学校法人のガバナンス改革を含むPDCAサイクルを機能させ、持続可能な質的水準の向上と内部質保証の実質化を推進するべく「内部質保証・教学マネジメント推進体制」を2022年1月に再編し、同年4月より実装させています。



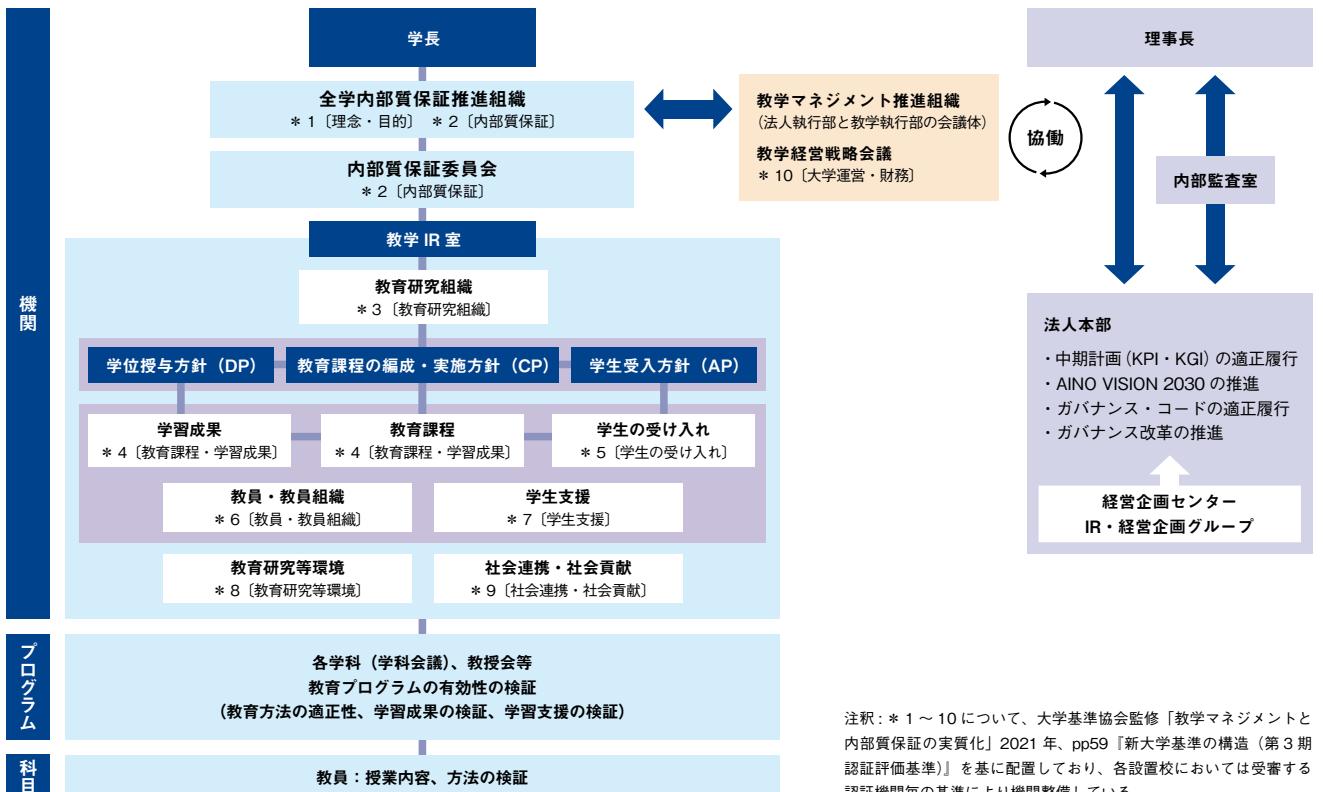
「教学マネジメント指針」概要

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

<p>教学マネジメントとは</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。 ○ その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源（人員や施設等）や学生の時間は有限であるという観点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという観点が特に重視される。
<p>教学マネジメント指針 とは</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学修者本位の教育の実現を図るために教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営すなわち教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営の在り方を示す。 ○ ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。 ○ 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されなければならない取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。 ○ 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

出典：令和2年1月22日文部科学省中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント」指針より

学校法人藍野大学設置校における内部質保証・教学マネジメント推進体制 概念図



学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

三つの方針

「卒業認定・学位授与の方針」(DP)、「教育課程編成・実施の方針」(CP)、「入学者受入れの方針」(AP)
教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

IV
(FD・SD、教學 IR)
教学マネジメントを支える基盤

I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DP を具体的かつ明確に設定

II 授業科目・教育課程の編成・実施

- 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる
- 学生・教員の共通理解の基盤や成績評価の基点として、シラバスには適切な項目を盛り込む必要

III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DP の見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多元的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保

- DP に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適な FD・SD を、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学 IR の学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

V 情報公表

- 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要
- 楽観的な説明責任を果たすことで、社会からの信頼と支援を得るという好循環の形成が求められる

積極的な説明責任

「大学全体」
レベル

シラバス、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリング、キャップ制、週複数回授業、アクティブラーニング、主専攻・副専攻

「学位プログラム」
レベル

ループリック、GPA、
学修ポートフォリオ

I~Vの取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

↑
社会からの信頼と支援

AINO VISION 2030 (2021年度～2030年度)

2030年度を目標年度とする長期ビジョン

学校法人藍野大学は2008年度以降、財政の安定化に一定の成果を収め、2014年には、理事長の諮問機関として「将来構想検討委員会」を発足させ、本法人運営のさらなる改善・充実に向けた将来構想“AINO VISION 2025”を答申しました。そして2021年、持続可能な発展を推進するため、新たに“AINO VISION 2030”を策定しました。建学の精神と教育理念を体現する医療人の育成に努めるとともに、日本の地域医療の質の向上に貢献していきます。

AINO VISION 2030 の概念図



5つの基本方針

【藍野大学】

- (1) 学部・学科・コース等設置による将来構想を検討。
- (2) リハビリテーション分野修士課程の設置を検討。
- (3) 大学院看護学研究科博士後期課程の設置を検討。

【びわこリハビリテーション専門職大学】

- (1) 行政と商業の中心地である八日市駅前に新キャンパスを開設。
- (2) 大学院、言語聴覚学専攻の設置など、学部学科等の再編構想の検討。
- (3) 地域連携事業の推進。

【藍野大学短期大学部】

- (1) 第一看護学科、専攻科（地域看護学専攻）及び第二看護学科を大阪阿倍野キャンパスに移転。
- (2) 藍野高等学校及び明浄学院高等学校との高短大連携を強化。
- (3) 第一看護学科及び第二看護学科の新たな統合を検討。

【藍野高等学校】

- (1) 明浄学院高等学校との統合。
- (2) 高等学校（准看護師3年課程）+藍野大学短期大学部第一看護学科（看護師2年課程）による正看護師養成を存続。
- (3) 明浄学院高等学校との統合後、衛生看護科メディカルサイエンスコースは、普通科看護メディカルコースに改組。

【明浄学院高等学校】

- (1) 学校法人藍野大学に設置者変更。
- (2) 普通科看護メディカルコースを設置。
- (3) 明浄学院高等学校の校地に新校舎竣工。

アクションプラン

教育

「自ら道を切り拓く力」を育む教育をベースに、社会構造の変化に対応した教育の質向上・学生支援強化に向けた施策と将来投資を行います。

藍野グループ

理念を共有する関連病院や関連福祉施設との協創により、理論と実践を架橋させる医療のスペシャリストの育成や、多様な研究テーマを創出することで、新たな社会価値を生み出します。

Collaborative Creation（協創）

研究開発

イノベーションの創出のために重視される医療領域を担う研究者の育成を図りつつ、産学官の協創による研究開発を行う拠点を形成し、グローバルな社会課題の解決に挑みます。

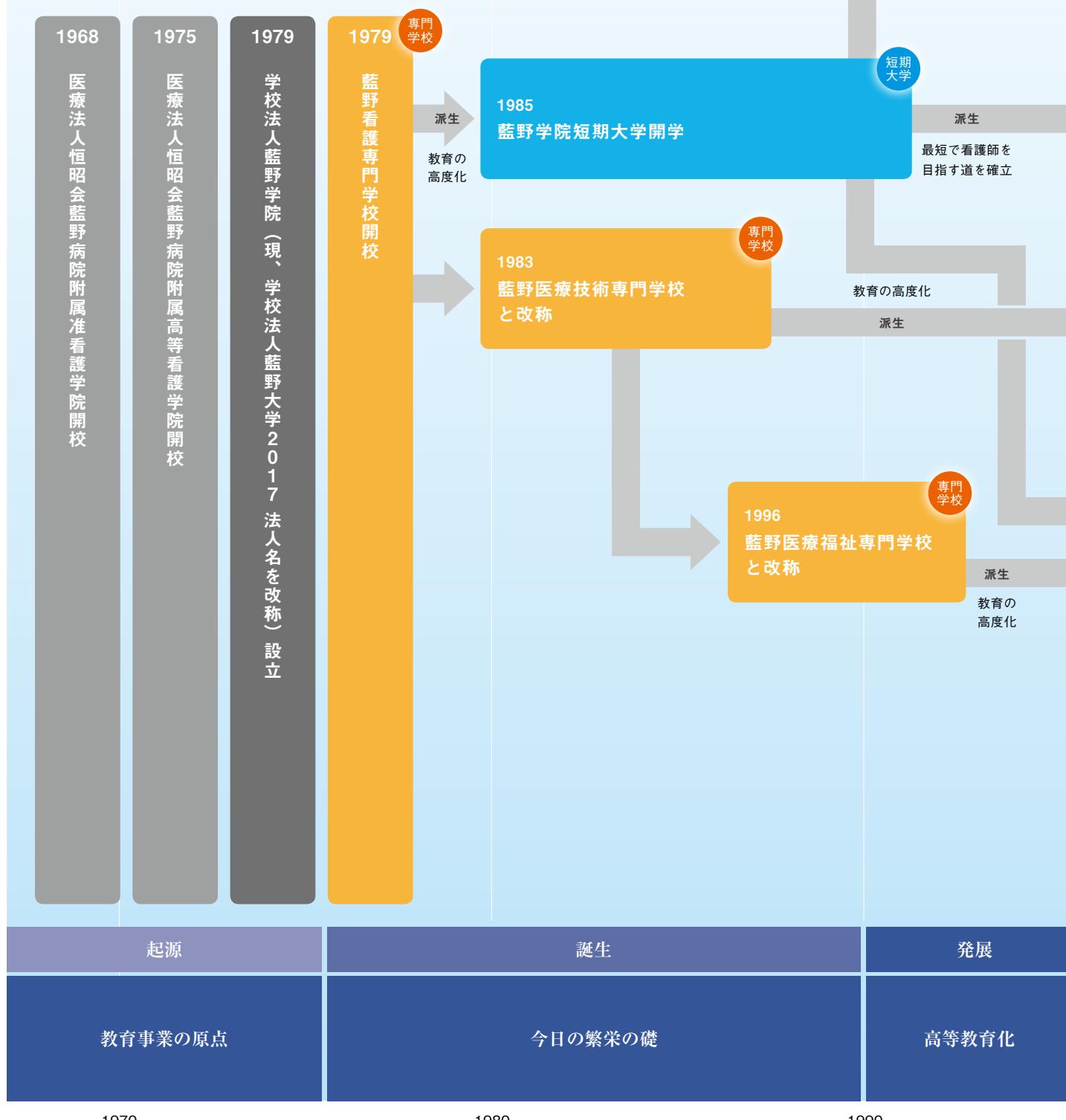
社会

教育機関と社会・企業での活動を双方に連携させていくことが必要であり、大学と地域社会による「智の協創」と呼ぶべき活動の活性化に取り組みます。

学校法人藍野大学の歩み

1968~2020 誕生から派生、そして教育の高度化へ

学校法人藍野大学は、1968年4月に、医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院として創基しました。以来50余年にわたって新たな社会的価値を生み出すとともに、多様な人々が医療職を目指せる様々なパスウェイを確立してきました。



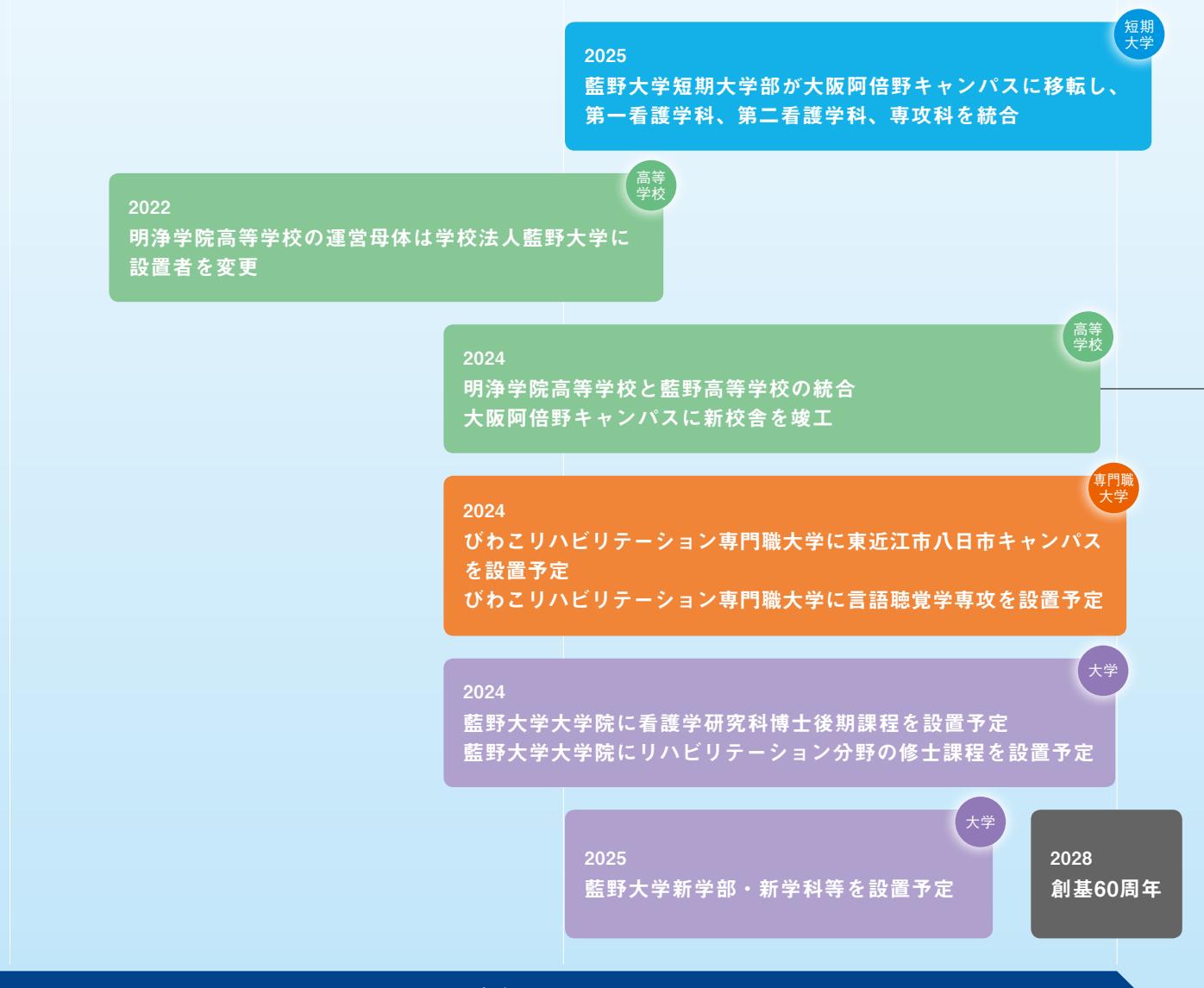


学校法人藍野大学の未来

2021～2030 統合から融合へ、次なる成長に向けて

「AINO VISION 2030」において、明淨学院高等学校の支援に関する具体的なターゲットイヤーを次のとおり定めています。

- 2022年4月1日、明淨学院高等学校は、学校法人藍野大学を運営母体として設置者を変更します。
- 2024年4月1日、現在の明淨学院高等学校の校地(大阪阿倍野キャンパス)に新校舎を建設し、藍野高等学校(衛生看護科)と明淨学院高等学校(普通科)を統合する計画を推進します。
- 2025年4月1日、藍野大学短期大学部は、第一看護学科、専攻科(地域看護学専攻)及び第二看護学科を大阪阿倍野キャンパスの新校舎に移転する計画を推進します。
- 2028年、学校法人藍野大学創基60周年記念事業を推進します。



多様な選択を可能にする学びの確立

大阪阿倍野キャンパスに新たな智の拠点が誕生

「天王寺駅」「大阪阿部野橋駅」周辺は地下鉄、JR、近鉄などの交通アクセスもよく、日本一の超高層複合商業ビルである「あべのハルカス」とも直結し、活気のある商業地区を形成しています。一方で大阪阿倍野キャンパス周辺には閑静な住宅地が広がっており、多くの教育機関があるなど文教地区でもあります。

2024年4月、この地に明淨学院高等学校と藍野高等学校の統合のシンボルとなる4階建ての新校舎が竣工します。コンセプトは「多様な生徒に寄り添い、志を育む」学び舎。建物全体を包み込むビッグルーフ、多様性を表すグリッドウォール、そして未来に向けて大きく開いたガラスウォールでコンセプトを“かたち”にしました。

2025年4月には藍野大学短期大学部の第一看護学科、専攻科及び第二看護学科を統合。大阪阿倍野キャンパスの新校舎に移転し、未来を拓く新たな智の拠点としてこれまでにない教育研究活動を展開して参ります。

新校舎（高等学校）完成予想イメージ図

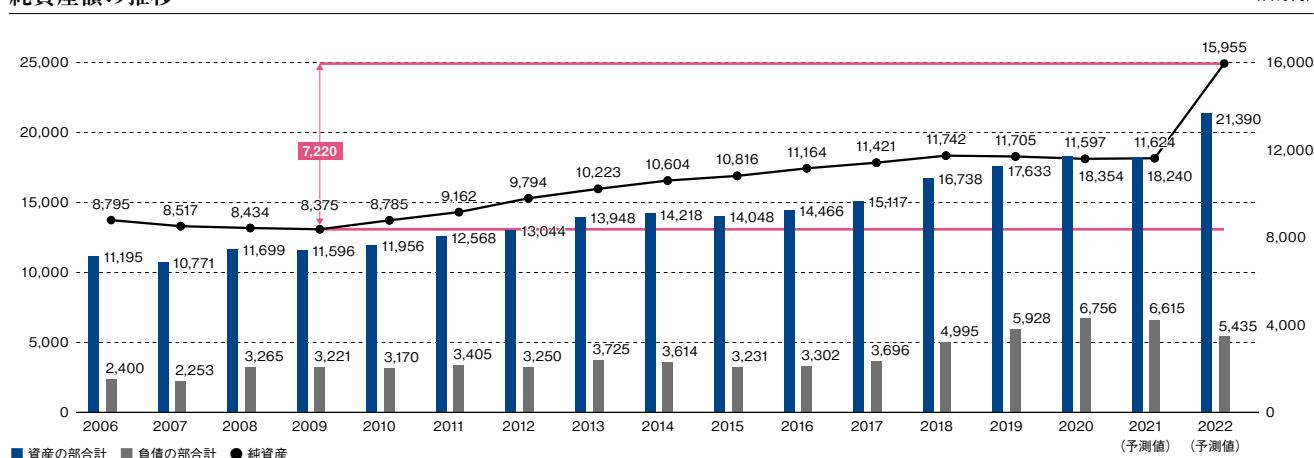


財務情報

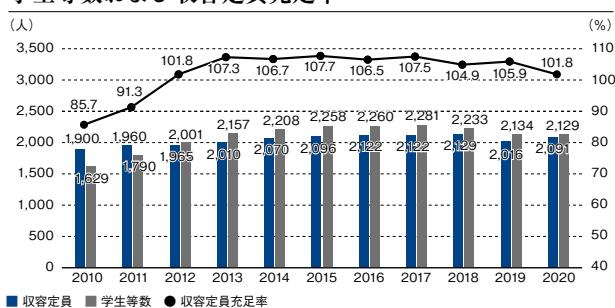
さらなる財政収支の安定を目指す

学校法人藍野大学は、数年間にわたる財政再建の取り組みを強化した結果、現在では、財政収支の健全化を担保しています。今後も、大阪阿倍野キャンパスプロジェクトなど、2030年に向けビッグプロジェクトが予定されていますが、中期的な事業計画を適正履行するために、予実管理の徹底を図り、さらなる財政収支の安定を目指して参ります。

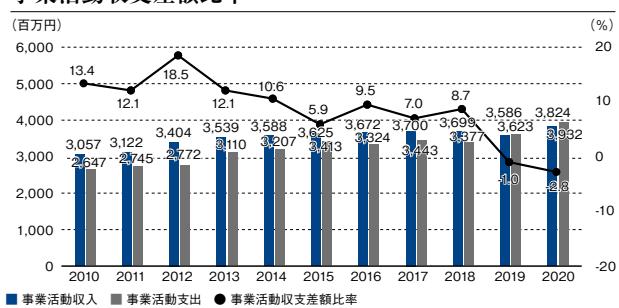
純資産額の推移



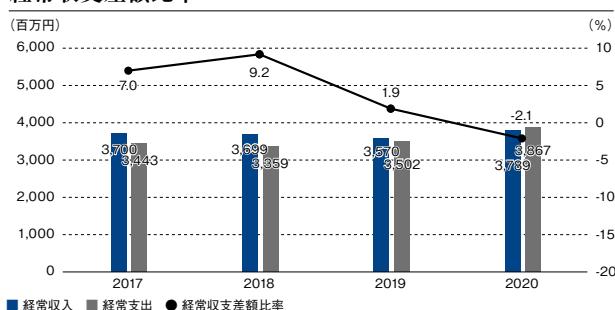
学生等数および収容定員充足率



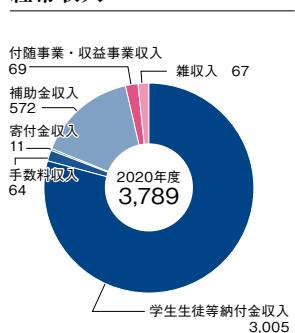
事業活動収支差額比率



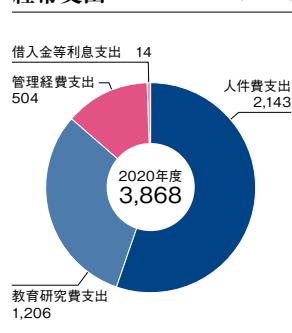
経常収支差額比率



経常収入



経常支出



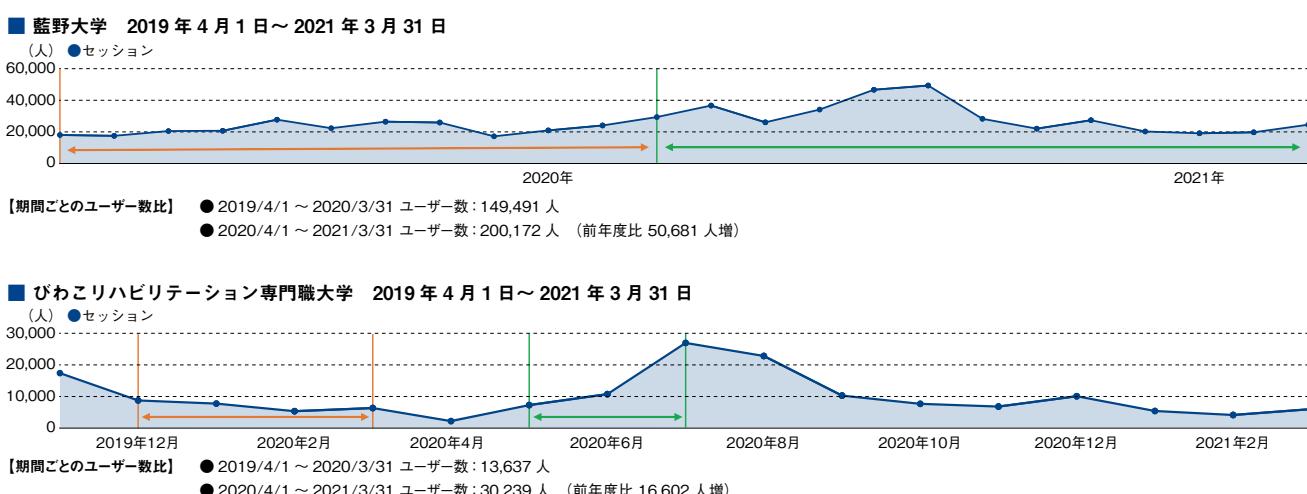
* 単位表示は、百万円未満四捨五入のため、合計等が一致しない場合があります。

ブランド価値の向上

積極的なコミュニケーション活動を展開

学校法人藍野大学は、2018年の創基50周年以降、より一層、社会価値の創出力を高め、変革の速度を上げてきました。これらの個々の取り組みが功を奏し、Googleアナリティクスのセッション数（藍野大学、びわこリハビリテーション専門職大学）において、ユーザー数の顕著な増加傾向が見られると同時に、大学プレスセンターのニュース・アクセスランクインでベスト30にランクインするなど、社会から徐々に注目が集まっています。今後も本法人の魅力をより広く、深く知っていただくために、「Collaborative Creation（協創）」をさらに拡大・推進し、積極的なコミュニケーション活動を展開して参ります。

藍野大学とびわこリハビリテーション専門職大学のセッション数の推移



大学プレスセンター ニュース・アクセスランクイン

ベスト30ランクイン（サンデー毎日掲載）（2019～2021）

ランキング（順位）		配信日	タイトル	掲載号
全国	近畿			
9	1	2019.7.22	「びわこリハビリテーション専門職大学」（滋賀県）の2020年度設置認可を申請（9月6日認可）。	2019.10.6号
8	1	2019.9.11	滋賀県初のリハビリ系4年制大学「びわこリハビリテーション専門職大学」が設置認可。	2019.11.10号
22	5	2019.9.13	「びわこリハビリテーション専門職大学」教授就任予定の岸田和史氏が第71回「保健文化賞」を受賞。	
11	2	2019.10.11	学校法人近畿大学、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構との共同研究で、「神経細胞培養材および神経損傷治療剤」を発明。PCT国際特許出願を行い、特許公開に。	2019.12.8号
19	4	2020.4.1	4月1日に新理事体制が発足。組織体制の強化により、戦略的かつ緻密で機動的な法人運営の推進を目指す。	2020.6.7号
29	7	2020.8.3	新型コロナ感染症の拡大防止に向け、同大・同短大部を含む茨木市内6大学が8月に茨木市と共同声明を発表。	2020.10.11号
6	3	2020.8.20	学校法人明浄学院が運営する明浄学院高校の設置者を2022年4月、学校法人藍野大学に変更で合意。	
26	8	2021.1.12	新型コロナで実習ができず困っている医療系学生をVR（バーチャルリアリティー）で支援する大阪大大学院医学系研究科の菅本一臣教授のプロジェクトに、藍野大医療保健学部の学生らも参加。	2021.3.7号
22	17	2021.6.16	関連の医療法人恒昭会が協力し、藍野大が新型コロナワクチン大学拠点接種の実施を決定。また、同法人のびわこリハビリテーション専門職大（滋賀県）が、県内のワクチン接種会場に教員（医師）を派遣。	2021.8.8号
22	10	2021.7.9	茨木市内で初の大学拠点接種を7月13日から実施。医師、看護師免許を持つ教員や関連の医療法人が協力。	2021.9.12号
16	4	2021.8.10	府内の保健所に短大部の教員3人と、保健師・看護師資格を有する在学生2人を応援派遣。	2021.10.10号
24	9	2021.8.20	大学拠点接種の会場や、学生、運営スタッフへのインタビューの様子を撮影したPV動画を公開。	
30	7	2021.12.24	食品の支援が必要な学生らに、食品ロス削減を目指すLAWSONからクリスマスケーキの余剰分が寄贈。	2022.3.6号

【出所】毎日新聞出版「サンデー毎日」

様々な協創を通して地域社会に貢献

学校法人藍野大学は、教育・研究だけではなく、社会貢献を基本的な使命として、地域社会、産業界、自治体との協創を推進しています。

また、「関西 SDGs プラットフォーム」の会員として持続可能な開発目標を支援し、SDGs の達成を目指しています。
<https://kansai-sdgs-platform.jp/>

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
関西SDGsプラットフォーム



学校法人藍野大学によるフードバンク活動

学校法人藍野大学は 2021 年 11 月 30 日より、コロナ禍で困窮している学生・生徒の支援、また食品ロスの削減に向けて、「フードバンク」を実施しています。



■愛のフードバンクについて

「愛のフードバンク」で取り扱う支援物資は、企業等から印字ミスや過剰在庫、賞味期限間近により市場では流通できない食品および、教職員に持ち寄っていただいた食品です。市場や家庭では、余っている、または使われなくなった食品がある一方、様々な理由で食べ物の確保がままならない人々がいます。

学校法人藍野大学は、この2つの課題をマッチングすることで、“食品ロス”を減らし、“誰もが食事に困らない社会”の実現を目指すため、フードバンクの運営に取り組み、学生・生徒への支援と SDGs の達成に貢献できるよう活動します。

集まった支援物資は、学校法人藍野大学大阪茨木キャンパス「Medical Learning Commons 1 階」に冷房完備の倉庫を設置し、担当職員が適切に管理しています。また、いつでも支援物資を希望する学生・生徒に対し、定期的に配付できるよう体制を整えています。





教育機関初、おおさか食品ロス削減パートナーシップ事業者に決定 食品ロスの削減推進に向けて、学校法人藍野大学と大阪府が協力――

学校法人藍野大学は、2022年2月10日に大阪府と協力して食品ロスの削減を推進することで、教育機関として初めて、おおさか食品ロス削減パートナーシップ事業者に決定されました。

■おおさか食品ロス削減パートナーシップ

食品ロスの削減をめぐっては、2019年5月に食品ロス削減推進法が制定され、同年10月より施行されました。その前文において、「世界には食料不足に直面する人が存在する中で、多くの食料を輸入している国として食品ロス削減に真摯に取り組む」と宣言されています。

このような国の動きとSDGsも踏まえ、学校法人藍野大学では2021年11月より始めたフードバンチャー活動

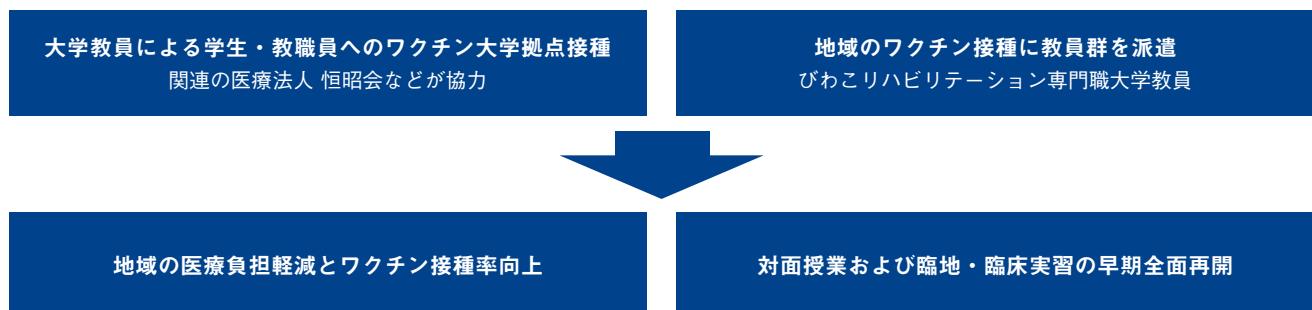
による食品ロス削減のほかに、大阪府と連携して、独自の食品ロス削減冊子の制作や学生ホールへの啓発パネルの設置などを行い、学生に対する啓発や、学生食堂の食品ロスの発生抑制に取り組みます。

本法人は学生・教職員一人ひとりが日々の食生活を見直して、食品ロス削減を実行することで、SDGs達成に貢献します。

医療従事者を輩出する学校法人藍野大学としての貢献活動

学校法人藍野大学は、茨木市内初の新型コロナワクチン「大学拠点接種」を実施するとともに、地域へ教員・在学生を派遣することで、地域自治体の医療負担の軽減に貢献しました。

医療従事者を輩出する学校法人藍野大学としての貢献



■大学拠点接種

学校法人藍野大学は、大学拠点での新型コロナワクチン接種を開始する政府の発表方針を受け、ワクチンの大学拠点接種に協力することを決定し、2021年7月に茨木市内初(茨木市に本拠を置く大学・企業)の1回目接種を行いました。

ワクチン接種には、本法人の医師免許・看護師免許を有する教員が従事し、バックアップとして関連の医療法人恒昭会の医師・看護師のほか、臨地・臨床実習を受け入れている病院に協力していただきました。



■地域へ教員・在学生を派遣

学校法人藍野大学は、滋賀県および滋賀県野洲市からの要請を受け、地域のワクチン接種に本法人設置校であるびわこリハビリテーション専門職大学から教員群(医師)の派遣を決定。地域の接種率向上に貢献しました。



また、2021年8月には、新型コロナウイルス感染症の第5波への対応として、保健所での人員体制の強化を図る大阪府健康医療部からの応援派遣依頼を受け、本法人設置校の藍野大学短期大学部専攻科教員3名と在学生約3名(保健師・看護師資格を有する者)を派遣しました。

設置校一覧

大阪茨木キャンパス



藍野大学／藍野大学大学院
〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4
TEL 072-627-1711(代表)



藍野大学短期大学部
〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25
TEL 072-626-2361(代表)



藍野高等学校
〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-11
TEL 072-627-1796

大阪富田林キャンパス



藍野大学短期大学部
〒584-0076 大阪府富田林市青葉丘11-1
TEL 072-366-1106

びわこ東近江キャンパス



びわこリハビリテーション専門職大学
〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967
TEL 0749-46-2311

大阪阿倍野キャンパス



明浄学院高等学校
〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里3-15-7
TEL 06-6623-0016

AINO VISION 2030 REPORT Vol.1

2022年4月1日発行

学校法人 藍野大学

〒567-0011 大阪府茨木市高田町1-22

TEL : 072-621-3764

<http://www.aino.ac.jp/>